

ネット 漂流

狙われた子どもたち

Vol.72

位置情報の共有に 抵抗のない世代



ネット情報技術推進ネットワーク株式会社
篠原 嘉一（しのはら・かいち）

8月のお盆のさなか、事件の報道が学生たちに驚きを与えた。北九州で起きた高校生親子が刺されるというニュースだ。テレビの報道ではアプリの名前は示されなかったが、ネットコースでは知人のコメントから、アメリカの位置情報アプリの名前が出た。

Zenry（ゼンリー）は位置情報を共有することを目的としたアプリで、コロナ禍の今、学生同士でお互いの行動を把握するために利用されている。当初、親子間での位置情報共有に利用されていたが、コロナになり登校できなくなった学生や、学校にさえ行けなかった大学生の中で互いの居場所を共有して安心感を得ているようだった。最低でもリアルな仲間同士であれば問題はなかったと思うのだが、ゲームの相手やネットでつながった相手とも互いの情報が確認できることから抵抗なく使う学生が増えた。大人であれば人と位置情報を共有することに抵抗があると思う。しかし、共有することに喜びを感じる世代は、相手とより親近感を持てるようでコロナ禍で一気に広がった。年齢でいうと6年生ぐらいから利用者がいる。

つた相手が本当に高校生なのか、女性なのか、半信半疑の状態がこのアプリを使うと、実在する相手の居場所が共有できるのだから、なりすましや嘘がつかない。互いに高校生とわかるとLINEなどでテレビ電話を使って会話をしていたかも知れない。

男女の会話の中で、怖さを感じた人がアプリを削除して逃げることもある。出会い系サイトでも位置情報を共有しないタイプであれば、アプリ削除で逃げ切れたかもしれないが、Zenryに関してはアプリを削除しても相手側が削除しない限り最後の位置情報は相手側にわかる。日頃の利用中に相手の家や学校、立ち寄るコンビニなどが相手に見えていたことだろう。最後に自宅アプリを削除していたなら家の場所が相手に残ったままだ。その位置情報をGoogle Earthで確認すると家の様子や周りの建物が映像で見えてくる。仮にコロナの影響がなく、普通に学校生活が送れていたのなら、ネットで知り合った相手と連絡がつかなくなっても、友達に相談することで忘れられたかも知れないが、自宅リモートで過ごしている今の学生は、ささいな悩みを相談する相手がいない。ネットで知り合った

相手が、マスクをせず唯一（テレビ電話で）話せる相手だろうから、突然連絡がつかない状況になると不安が増してしまうのだ。会いたい気持ちを抑えられないと東京から北九州まででも会いに行ってしまうだろう。

情報モラルの講座の中でも、位置情報共有アプリの怖さをここ数年伝え続けてきたが、今回のような事件は実際にいくつも起きていく。ネット上の相手にストーカーされるなど、事例はいくつも起きているが、学生にはこのアプリが大変支持されている。クラスの仲間と位置情報共有している関係で、怖さを感じていないのだから、知らない人をメンバーの誰かが招き入れてしまうと状況は変わる。関わりたくない先輩や非行グループ、別れた交際相手、それだけでなくSNSでつながるとなかなか相手とは縁が切れない仕組みが、被害に遭って初めて怖さとして体験して気づくのだ。

ネット上で知り合った相手とテレビ電話で互いを確認し、位置情報を共有して居住地を確認し、より親近感を持つて交際が始まるのだが、ひとつだけ見えない部分がある。それが相手の本音だ。リアルな交際は相手の顔が見える。人柄を知ることできる。しかし、ネット上での交際は意識して向き合っているときの相手の様子しか見えない。

Zenryは近々サービスを終わると報道された。親会社の人員削減などもあり、終わるようだが、継続を望む投稿が多く寄せられている。使い方次第で便利でもあるが、使う人間次第で凶器にもなる。数年後を見据えて、知らない人となつながらリスクも意識しておいてほしい。

そこで、今回の事件のようにネットで知り合